

武井外務大臣政務官ご挨拶
「日本 UNEP フォーラム 2016～水と森林を考える～」
平成 28 年 11 月 22 日（於：国連大学）

本日、多くの関係者の出席を得て「日本 UNEP フォーラム 2016」が開催されることに對し、外務省を代表し、お慶び申し上げます。

また、日本 UNEP 協会が設立一周年を迎えるにあたり、日本 UNEP 協会の皆様をはじめ、我が国と UNEP との関係強化にかかわってこられたすべての関係者の方々の御尽力に心から敬意を表します。

UNEP は、国連における環境分野を専門とする唯一の組織として、地球規模の環境問題への取組みに主導的な役割を果たしています。本年 8 月、私は、初のアフリカ開催となった第 6 回アフリカ開発会議（TICAD VI）に出席するため、UNEP 本部があるナイロビを訪問いたしました。残念ながら、日程の都合により UNEP 本部を訪れることはできませんでしたが、雄大なアフリカの大地を目の前にして、大自然の保全と生物資源の持続可能な利用の両立を図る重要性を改めて実感するとともに、このナイロビの地を拠点に地球環境問題に幅広く取り組んでいる UNEP の活動を身近に感じています。TICAD VI においても、アフリカ各国の気候変動への関心の高まりを実感しました。また、先日、我が国はパリ協定を締結したところですが、気候変動をはじめとする、国境を越える環境問題への取組みにおいては、言うまでもなく国際的な協力が重要であり、日本は UNEP との連携を以前にも増して重視しています。

UNEP 本部においては、本年 7 月に、ノルウェー出身のエリック・ソールハイム氏が事務局長に就任し、新しい体制がスタートしました。我が国として、新事務局長と連携しつつ、UNEP との協力を強化してまいります。日本 UNEP 協会におかれましても、我が国における UNEP に対する支援の輪がますます広がるよう、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

また、我が国と UNEP の関係について述べる際には、大阪にある UNEP 国際環境技術センター（IETC）に触れないわけにはまいりません。IETC は、UNEP の機関の一つとして廃棄物管理の分野における専門的知見を活かし、開発途上国への廃棄物処理技術の移転に大きく貢献しています。

本年 5 月に開催された、第二回国連環境総会において、我が国は IETC と共同して、廃棄物管理に関するサイドイベントを行いました。また、この総会においては、我が国は廃棄物の適正管理に関する決議を EU 等と共同で提案し、採択に至りました。このように我が国は日本国内に立地している IETC と密接に協力しつつ、廃棄物処理に関する国際協力を積極的に進めています。本年 7 月に就

任したキース・アルバーソン新所長の下で、IETC の取組みが一層活発に推進されることを期待しております。

本日の日本 UNEP フォーラムでは「水と森林」がテーマとして掲げられています。昨年国連総会で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」でも、安全な水の確保や森林を含む自然環境保全が重要な課題とされており、本日のテーマは誠に時宜を得たものです。今回の日本 UNEP フォーラムが、水や森林と人々の暮らしとの関係を見つめる実りある機会となることを祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。